

夢をかなえる コミュニケーションカ



Naoko Barker

PROFILE

バーカー 尚子
ばーかー なおこ
プライベートジェット・インテリアデザイナー
(米国GREENPOINT TECHNOLOGIES社)
香川大学法学部卒業

学

「学」 びたいこと、やりたい仕事、あなたが思い描く未来には、実は様々なルートがあります。

バーカー尚子さんは、現在、アメリカのGREENPOINT TECHNOLOGIES社で働いています。この会社はボーイング社の個人用ジェットにオーダーメイドでラウンジ、ダイニング、シャワールームなどの機内レイアウトを行っており、尚子さんはそこでインテリアデザインを担当しています。

「子どもの頃から、クリエイティブな分野に興味があったんです。商店街にある家具屋さんのディスプレイを見て、子ども心に『こういうのを作りたいな』と思っていました。」

しかし、尚子さんは最初からデザインの道に進んだわけではありません。あこがれを抱いたまま、香川大学の法学部に進学。卒業後はジャスコに就職し、東京本社の経理部で4年間勤務するという全く違う道を歩んでいたのです。

大きな転機となったのは、アメリカ海軍に所属し横須賀にいたアメリカ人男性との結婚と渡米でした。

「彼が『アメリカに帰るので一緒に行く』と丸亀の実家は大変なことになるかもしれない(笑)。」
かくして「バーカー」尚子さんはアメリカコロラド州に移り住むこと

なります。ご主人が新しい仕事に就き、尚子さんも船会社のカスタマーセンターで働く毎日。しかし「本当にしたいことは何だろうか?」と考えたとき、かつて選抜股になかった大学院で学びなおすという道が浮かび上がってきたのです。

尚子さんがインテリアデザインを学ぶべくワシントン州立大学大学院を受験したのは31歳。長男が1歳のときでした。

「アメリカの大学院は仕事を何十年もしてから学び直すという人もいるため、むしろ私は若いくらいでした。子どもはテイケア(アメリカの保育所的なサービス)に預けて授業が終わったら迎えにいき、夕食を作り、お風呂に入れて寝かしつけてから自分の作品を作る日々。英語力やプレゼン力も鍛えられましたし、振り返るとよく勉強しました。何より夫の協力があったからこそできたことです。」

あわただしい3年間の途中で尚子さんは長女を出産し卒業。その後シフトに切り、大学でインテリアデザインの講師をしながら34歳からの就職活動をスタートさせました。

今の会社に就職できた決め手は何だったのですか?

「学生時代に作ったポートフォリオ(作品集)と、自分なぞその会社に入りたか、という思いや自分の強みを伝える『カバレーター』の存在です。」

デザインは一人でやるものではありませんが、チームワークがとれるか、ということも確認されました。失敗は当然起こるものとして、それをどうするかというオープンコミュニケーションが重視されているのです。

小さい頃のあこがれを叶えた今、これから大切にしたいことはなんでしょう?

「今はまだ子どもも小さいので、仕事と家庭の両立も大切に考えています。子どもには、自信を持ち『自分にとって何が大切か』という核を持って1人で生きられる人間に成長してほしいと思っています。」

尚子さんの生き方や子どもへの願いは、就職や進学で「道をそれる」ことを恐れる学生に大切なことを教えてくれます。人生には様々な転機が訪れます。思うように進学や就職ができないこともあるでしょう。やりたいことが突然変わるかもしれません。家庭環境も変化します。人生の中で出会う様々な出来事、そこで立ち止まるのか、何が大切かを忘れず新たなきっかけにするのかは、私たち次第なんですね。最後に、尚子さんから学生にアドバイスをお願いします。

「進路に迷っている人は、大学にいる間にどんな選択肢があるのかを先生に聞いたり調べたりしましょう。やりたいことをやるためには何をすれば



2012年4月、男女共同参画室主催の「第1回キャリアデザイン講座」で学生向けに講演。



講演のあとは学生たちとリラックスした雰囲気でおしゃべり。30名の学生が参加しました。